～ふくしまの歴史と文化財～

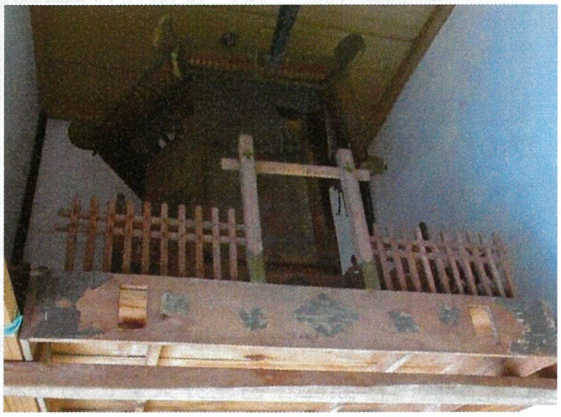
文字摺通信

第　70　号
2024年　8月15日
発行:文字摺歴史文化社

超贅沢！和田山岩角寺めぐり

６月２１日、長年懸案であった本宮市白沢の和田山岩角寺をめぐってきました。同行者は、仙台から佐藤弘夫さん（東北大学名誉教授、『日本中世の国家と仏教』。月刊『住職』に「人は死んだらどこへいくのか」を連載中）、茨城県から林京子さん（東北大学大学院博士課程、中世霊場の近世的変貌の研究）、伊達市梁川在住の八巻美加さん（『アワシマ信仰～女人救済と海の修験道』著者）と佐藤美穂子さん（福島大学大学院生）の４人と本宮市市教委の斎藤さん・石塚さん。

当日は福島駅西口で待ち合わせ、絹の里と昼食をとりながら歓談、そして岩角山へ。入口の「蛇舐石」を見ると各人各様の意見・疑問が出て、ワイワイガヤガヤ。このワイワイガヤガヤが楽しい、そして勉強になります。時間が来たので切り上げて本宮市教委の斎藤さん・石塚さんと合流。お寺の本堂で御挨拶、佐藤教順住職から寺の歴史を聞き、質疑応答。終わって本堂をじっくりと見せていただきました。一同、見上げて驚いたのは、本堂廊下の上に置いてあった、輦台お棺でした。葬儀が終って、お墓まで、このお棺に御遺体をいれて皆で担いだのでしょう。六角形の立派なお棺で、担ぎ棒を入れる穴が開いています。神輿のように担いでお墓まで行列を作ったのでしょう。



【輦台お棺】

本堂を出て、全山を石塚さんの案内、斎藤さんの解説で巡りました。全山が県の名称及び天然記念物に指定され、巨岩・奇岩が岩窟をつくり、岩肌には線刻（レリーフと言った方が適当かと思われる仏像もあり）の８０８体（御住職は三百数十体までは数えたそうです）の仏像・天神が彫刻され、全山をめぐると西国三十三観音巡りの成就になるそうです。

必見！毘沙門堂

岩角山の中腹に毘沙門堂があります。県指定重要文化財「木造毘沙門天及び吉祥天・善膩師童子立像」が収蔵されていますが、十二年に一度の御開帳の秘仏で、今回は参観できませんでした。寅の年の御開帳です。あと１０年後になります。毘沙門天と吉祥天は御夫婦で、善膩師童子は子息の関係です。なお、吉祥天の母親は鬼子母神と言われています。

吾が半生を振り返って（何でもベスト10）その5

“好きな作家とこの一冊”

好きな作家とこの一冊		
	作家名	この一冊
1	開高健	青い月曜日
2	小川洋子	密やかな結晶
3	野坂昭如	火垂るの墓
4	遠藤周作	沈黙
5	北村薫	詩歌の待ち伏せ
6	大江健三郎	われらの時代
7	吉行淳之介	砂の上の植物群
8	安部公房	砂の女
9	太宰治	斜陽
10	川上弘美	センセイの鞄

大学一年の時は、機動隊が構内に入り、全学試験ボイコットに参加、二年次は、「このまま卒業して３８年働くのか、３７年になってもよいのかな？」「学部に行ったら史料ばかり読むんだろうな」「もう少し小説を読みたい」と個人的に試験ボイコット。留年した昭和４８年は小説ばかり読んでいました。①就職試験（福島中央テレビ）の時、好きな作家を問われ、開高健と答えたら、「君は偏っている」と言われ、激論しました。結果は勿論不合格。②小川洋子を読むと不思議な感覚に襲われます。特にこの作品は足元が揺らいでいく不安定な気持ちになります。③焼け跡闇市派に憧れていた時期がありました。その中でこの作品は何度読んでも涙です。④私の中の「キチジロー」にビクビクする自分があります。⑤北村薫の文体が好きです。正しい日本語を書く作家だと思います。好きなミステリー作家でも第５位にランクインしましたが、北村薫の選ぶ詩歌に私も遭遇し、驚いたり、懐かしんだり、離せない本です。⑥健三郎では別な作品を選ぶべきかもしれませんが、大学１年の時に読んだ「われらの時代」がずっと残っています。⑦第三の新人が好きでした。エッセイ「軽薄のすすめ」も好きでした。⑧もう少し上位でも良かったのかもしれません。⑨小さな声で言います。「走れメロス」が好きです。⑩不謹慎かもしれませんが、川上弘美の佇まいが好きです。

※編集後記兼**近況報告**兼私憤公憤

☆岩角寺に同行の佐藤弘夫さんの入手しやすい著書を紹介します。

『日本人と神』（講談社現代新書）。『神国日本』（ちくま新書）。『起請文の精神史』（講談社選書メチエ）。『人は死んだらどこへ行けばいいのか』第１巻・第２巻（『月刊住職』連載の単行本化、興山社）第１巻で医王寺が、第２巻で八葉寺が紹介されています。

☆７月２０日（土）保原町文化財保存会主催の研修講座「石那坂の戦いはどこか・Ⅲ」を保原中央交流館で受講してきました。同じ主題を３回（第１回は昨年７月に熊谷氏が「富成石名坂」説を発表、第２回は今年２月に石原洋三郎氏が「飯坂大鳥城」説を発表、そして今回が第３回目で佐藤忠夫氏が発表）続けて行い、毎回１００名もの人が参加・聴講しています。発表後には毎回数人が質問をしたり、独自の自説を開陳したり、活発に議論が行われるのです。今回は、私も指名され１５分ほど自説を話してきました。非常に話しやすい雰囲気です。一つのテーマで、それも史料をどう読むかという難しいテーマで３回連続の講座があり、１００人もの人が参加する保原町文化財保存会の頑張りが羨ましい限りです。

『～ふくしまの歴史と文化財～文字摺通信』第７０号　令和６年８月１５日（木）発行
発行：文字摺歴史文化社　代表：守谷　早苗
〒960-8[illegible]　福島市[illegible]6-6　守谷　早苗
E-mail [illegible]　TEL：080-[illegible]